■西成特区構想有識者座談会への報告書4

＜2012年7月3日更新版＞

「仮称萩之茶屋まちづくり拡大会議」へのあいりん対策緊急提案

＜釜ヶ崎のまち再生フォーラム＞

	課題（論点）	方向性	理由	具体案とその効果
新しく付加するもの（夢を育てるもの）	土地活用	交通の便の良さ活用と地域社会維持	クリアランスは大リスク	土地のファンド化
	商店街の活性化	空き店舗の活用		まちづくり公社の設立
				①休眠物件（土地・空き店舗）の流動化でまちづくり資源の創出。②外資による破壊に対抗
	萩之茶屋小跡地の活用	学びやエンパワメントの拠点化	「再出発の街」になじむ	空き地活用の屋台村創出へ公的後押し（警察も）。西成ジャズ支援で日本版ニューオーリンズへ。
	あいりん体制の見直し	あいりん連絡協（府・市・府警・国）では不充分（情報もカネも）		若者向け（職能開発等）各種しかけのインキュベート拠点化
				若者層の呼び込み・定着化、
	まちを変える住民力	萩之茶屋まちづくり拡大会議の強化		あいりん連絡協議会（国・府・市・警察）に*将来的には*住民団体を参画させる。国もきちんと国費投入を。
		生保者の力の活用		
				覚醒剤対策等まちづくりサボタージュの監視、住民組織の強化と役割増大。建労法や雇用保険での国の責任を明確化できる。
ゆがみを修正すべきもの	持続不可能な人口構成	子供や家族の住める街	「ポスト日雇いの街として社会の姿としてそれが当然。	
				JR新今宮駅北側空き地に長距離バスセンターを誘致する
			観光拠点的発想の有効性は実証された	留学生会館の誘致（移転先を探している）
				伝統的「旅人の街」の良さを継承。若者吸引にもなる
利点として活用すべきもの	簡宿群の存在	釜ヶ崎の強みとして活用路線を多様化・拡大する		片親世帯や若者世代向けの生活支援・訓練付き寮として活用。改造へ補助
			使い方次第でコストも安い福祉的中間住居として活用可が実証されている	外国人宿街のベッドメイキング仕事の創出（地域で雇用創出のモデル）
				地域経済の活性化
				住居確保はあらゆる支援策の基礎
	支援団体とノウハウの存在	地域全体でケアする力の活用		
失ってはいけないもの	社会的包摂力	天然の「コレクティブタウン」（誰とでも気さくに話せる街）の良さを活かす	生保を含めあいりん総崩壊の場合のリスクは市の総コストに甚大な被害。現行システムの再評価も必要	空き店舗の活用等と事務所費補助等でNPO等の支援ノウハウをもっと活用する
				地域トータルケア力のさらなる強化で生保ボーダー層支援と地域安定化
	雇用保険・生活保護制	就労意欲の活用。雇用保険復活で生保一辺倒を是正。生保は勤労控除の見直し		生活保護費の転用可とする特区的制度改革で、特掃の生保者型・若年型・職能向上型の導入。
	寄り場や特掃を含めた雇用機会創出機能のある街	寄せ場機能は排除せず西成労働Cの管理力と求人開拓力を生かす。非建設系の安定雇用も誘導し、地域トータルケアと結合し、地域丸ごとの就労支援体制へ。特掃は維持し多様化。若者訓練型導入	寄せ場は自然消滅ならともかく、即廃止の弊害は甚大。長年蓄積した支援力は財産。場所や広さは再検討。支援対象者もすでにあいりん枠を超えているのが現実。	あいりん総合センターは建て替えて、西成労福C・市更相・医療C・HL就業支援C等の一体的運営をめざす。各団体バラバラなケースワークを地域全体で一体化する。業務連携は先行的に着手可かつ必要。避難場所の一つとして防災拠点にもする。労働施設に限定せず、文化活動やつながりづくり支援など多目的施設とする。管理は指定管理者制度で民間が行なう。
				適切な生保運用、及び生保・就労の相互乗り入れが可能に。個別指導が前進
地域存立の前提を成すもの	安心安全	防災・減災拠点を新たに確保	高密度人口に対応する避難施設は未整備で、喫緊の課題	
		結核・公衆衛生の強化		
		覚醒剤撲滅に本気で取り組む		